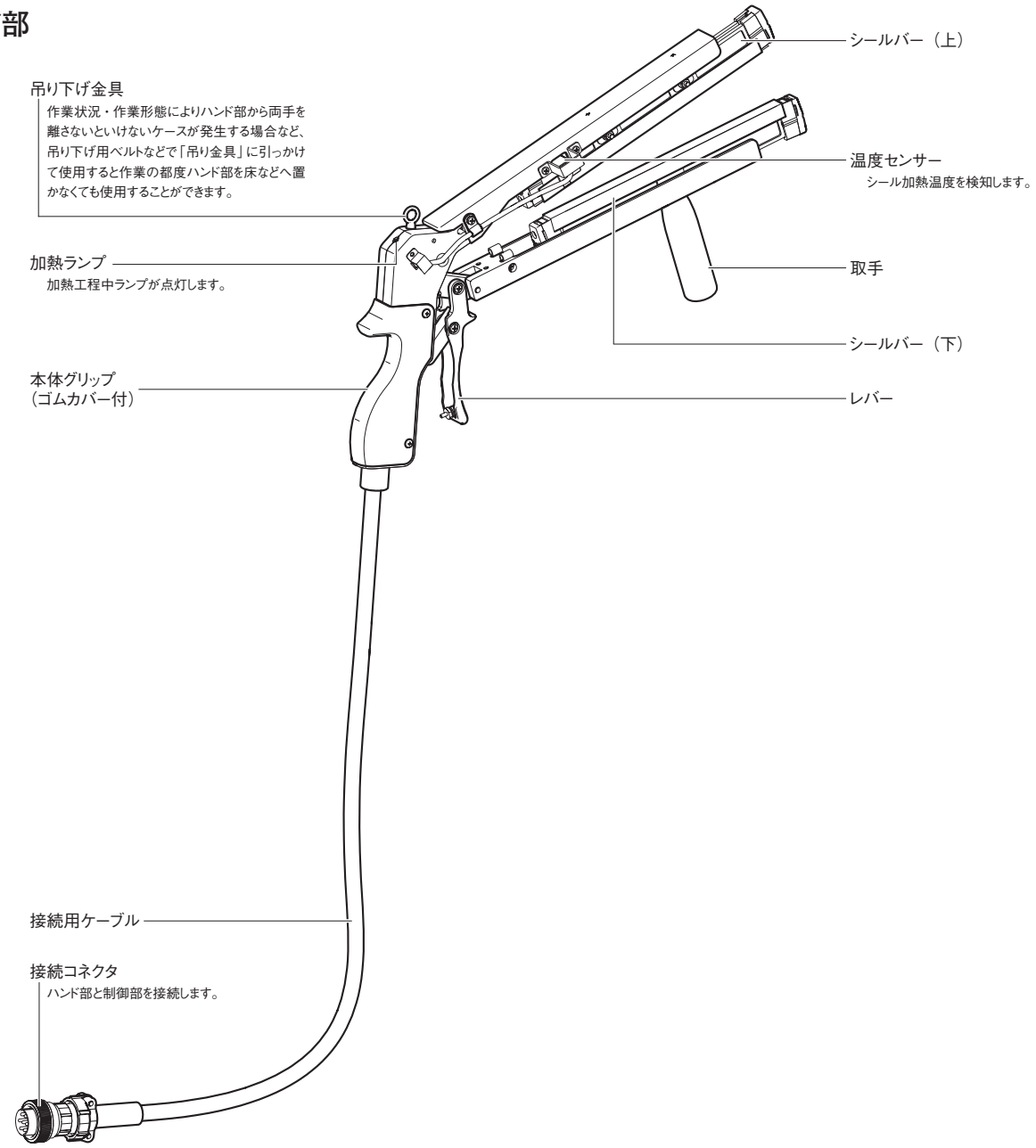
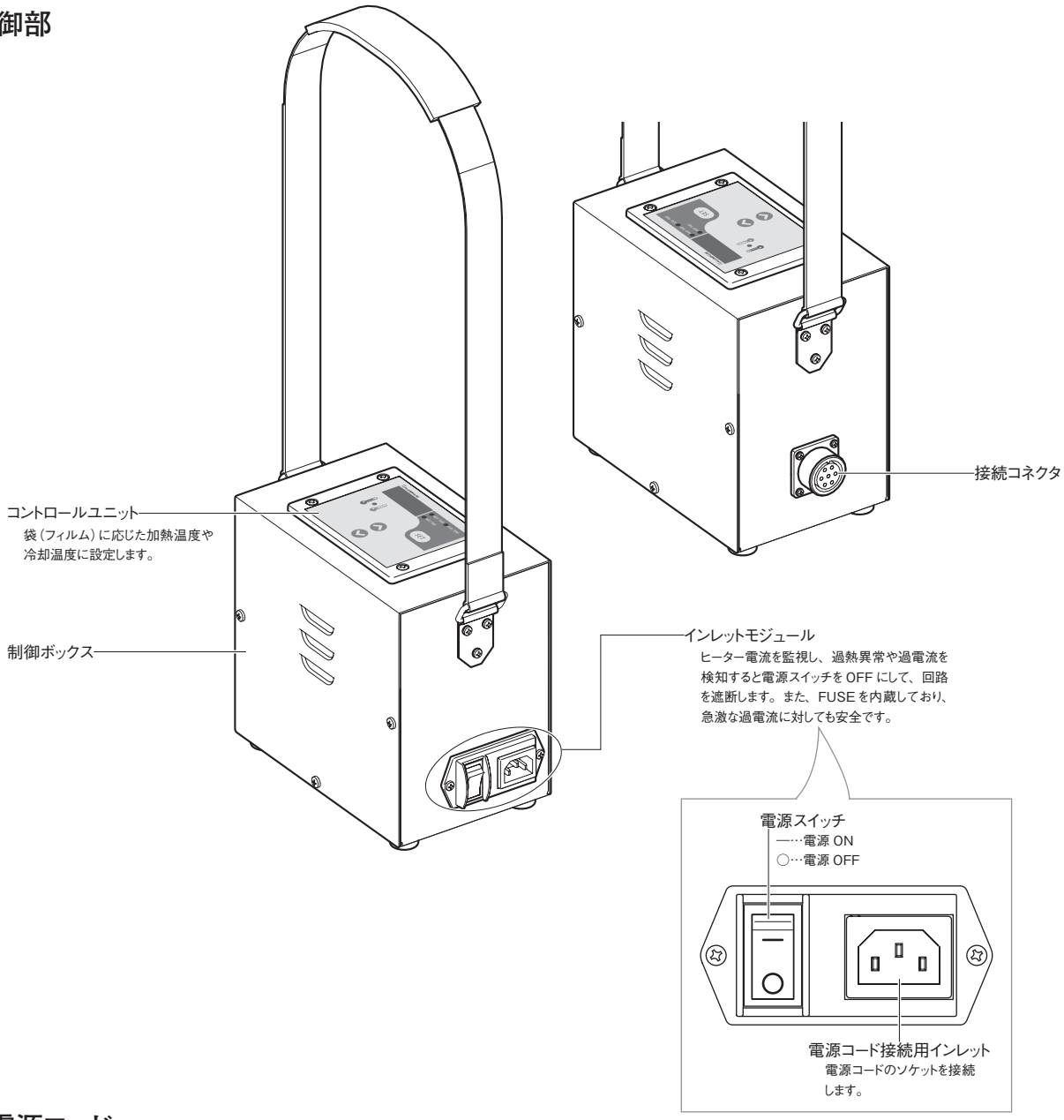
5　各部の名称とはたらき

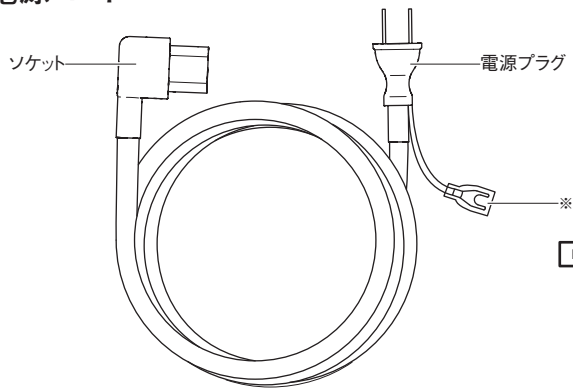
ハンド部



制御部



電源コード



※電源コードの電源プラグには、アース線がありますが、
製品本体とは接続されていません。

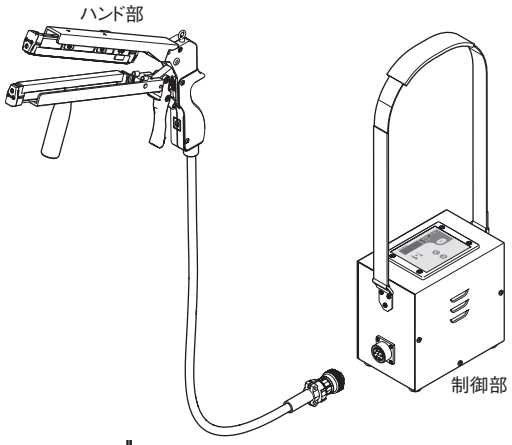
MEMO　本製品は、法律に基づき、内部配線の絶縁に十分配慮した製品となっているため、アース接続は不要です。ただし、湿気の多い場所や水がかかる恐れのある場所では、故障により漏電し、感電の恐れがあるため、絶対に使用しないでください。

6　正しい使い方

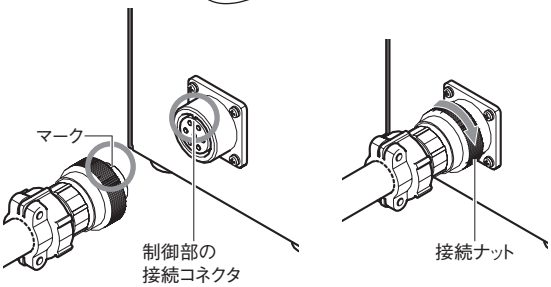
この製品を使用する時は以下の「正しい使い方」をよくお読みいただき、お使いください。
以下の方法以外の操作方法で使用されますと故障の原因となり、たいへん危険です。

6-1　ハンド部の取付

工場出荷時に制御部からハンド部を取り外して梱包しています。



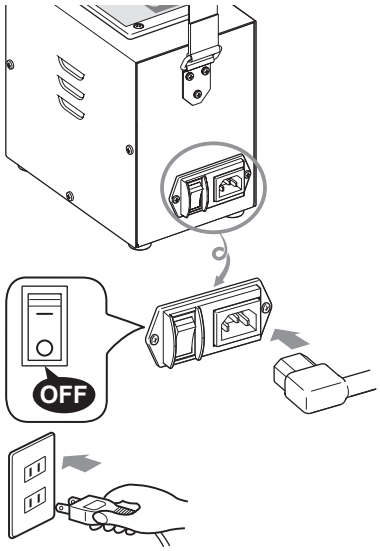
ハンド部の接続コネクタを制御部の接続コネクタに差し込みます。制御部の接続コネクタにある溝とハンド部の接続コネクタのマーク部を一致させて差し込んでください。
差し込まれましたら、ハンド部のコネクタについてある接続ナットを回して接続を確実にしてください。



6-2　電源コードの接続

1　電源コードのソケットを右イラストを参照して、制御部の電源コード接続用インレットに接続してください。

2　電源コードの電源プラグを「1　仕様」(→ P.5) で掲載しているお買い上げ製品の電圧・電力がとれるコンセントに確実に根元まで差し込んでください。

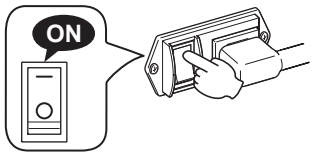


⚠ 警告　電源コードは必ず附属のものを使用してください。規定の容量に合わない場合、火災などの危険があります。

注！　電源スイッチは OFF の状態で、電源コードのソケット、電源プラグを接続してください。
電源スイッチが ON の状態で電源コードを接続すると、電源スイッチ内部の安全回路がまだ動作していないため、一旦 OFF になりますが、異常ではありません。

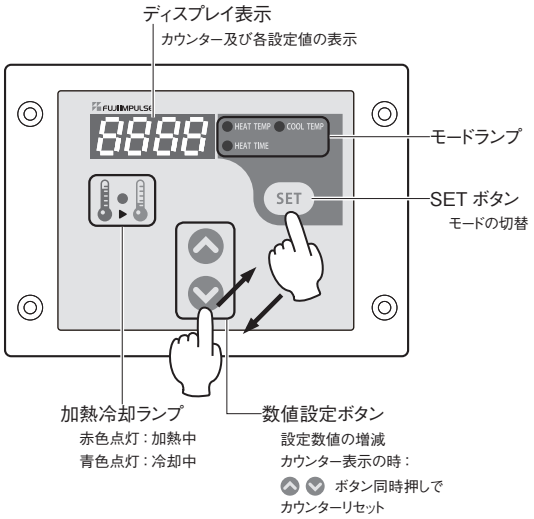
6-3　電源スイッチ ON

制御部の電源スイッチを押して ON 状態にするとコントロールユニットのディスプレイ表示が点灯します。



6-4　コントロールユニットの設定

コントロールユニットで加熱温度・加熱時間（加熱温度保持時間）・冷却温度を設定します。
袋（フィルム）の材質、厚さなどにより適切な設定値は変わりますので、異なる袋（フィルム）を使用される時はその都度設定してください。
SET ボタンを押すと、カウンター数（シール数）→加熱温度設定値→加熱時間設定値（加熱温度保持時間）→冷却温度設定値の順にディスプレイ表示に呼び出せます。
呼び出されたモードはモードランプが点灯します。どのモードランプも点灯していない時はカウンター数（シール数）が表示されている時です。



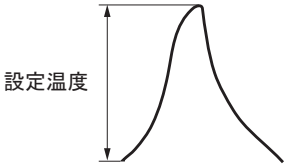
6-4-1　加熱温度の設定

・SET ボタンを押し、モードランプの HEAT TEMP が点灯していることを確認します。
・シールする袋（フィルム）に合わせて加熱温度を設定します。
　▲▼ ボタンで数値を加減して設定します。
　［加熱温度の設定範囲：60 ～ 180℃］
・使用される袋（フィルム）の材質により適切な加熱温度は異なります。
・シールができる最低の加熱温度に設定してください。
　作業速度が上がり、部品の無駄な消耗を抑えます。

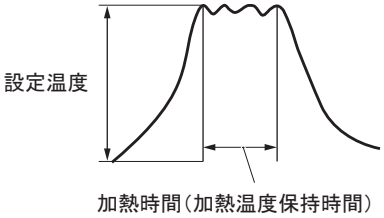
6-4-2　加熱時間（加熱温度保持時間）の設定

・SETボタンを押し、モードランプの HEAT TIME が点灯していることを確認します。
・加熱時間（加熱温度保持時間）を設定します。
　▲▼ ボタンで数値を加減して設定します。
　［加熱時間の設定範囲：0.0 ～ 2.0 秒］
・温度制御における加熱時間（加熱温度保持時間）とは設定された温度を維持させる時間のことで、通常は、加熱時間（加熱温度保持時間）を設定しなくても（加熱時間（加熱温度保持時間）を 0.0 秒にしても）シールはできます。
　袋（フィルム）に厚みがあり、加熱温度を上げてもシールができない場合やシールができても袋（フィルム）がダメージを受けている場合のみ加熱時間（加熱温度保持時間）を設定する効果が期待できます。

加熱時間（加熱温度保持時間）を設定しない場合の加熱温度測定グラフの軌跡



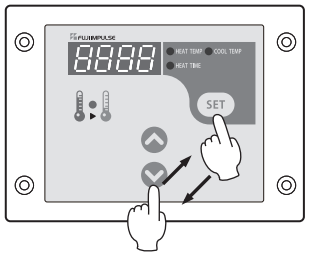
加熱時間（加熱温度保持時間）を設定した場合の加熱温度測定グラフの軌跡

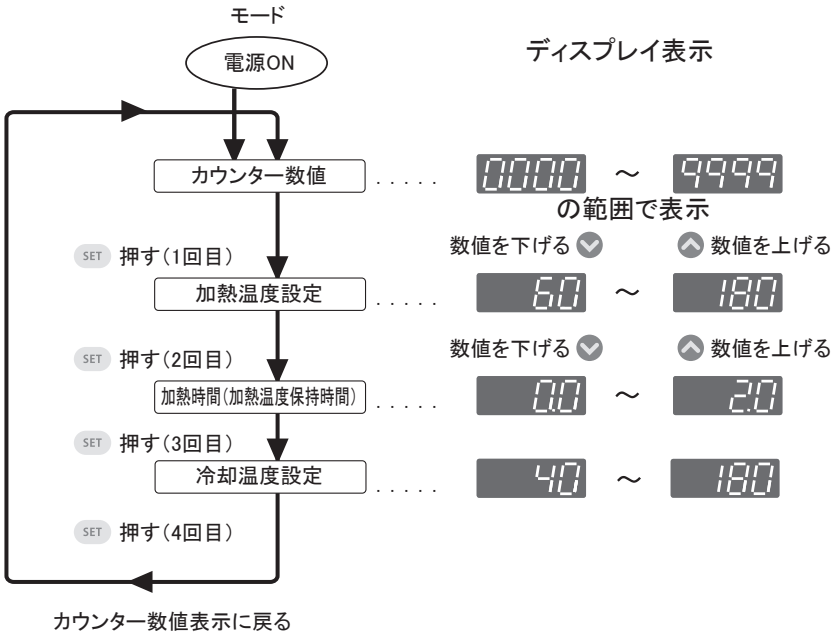


6-4-3　冷却温度の設定

・SETボタンを押し、モードランプの COOL TEMP が点灯していることを確認します。
・冷却温度の設定をします。
　▲▼ ボタンで数値を加減して設定します。
　［冷却温度の設定範囲：40℃～加熱温度設定値］
・冷却温度は充分にとってください。

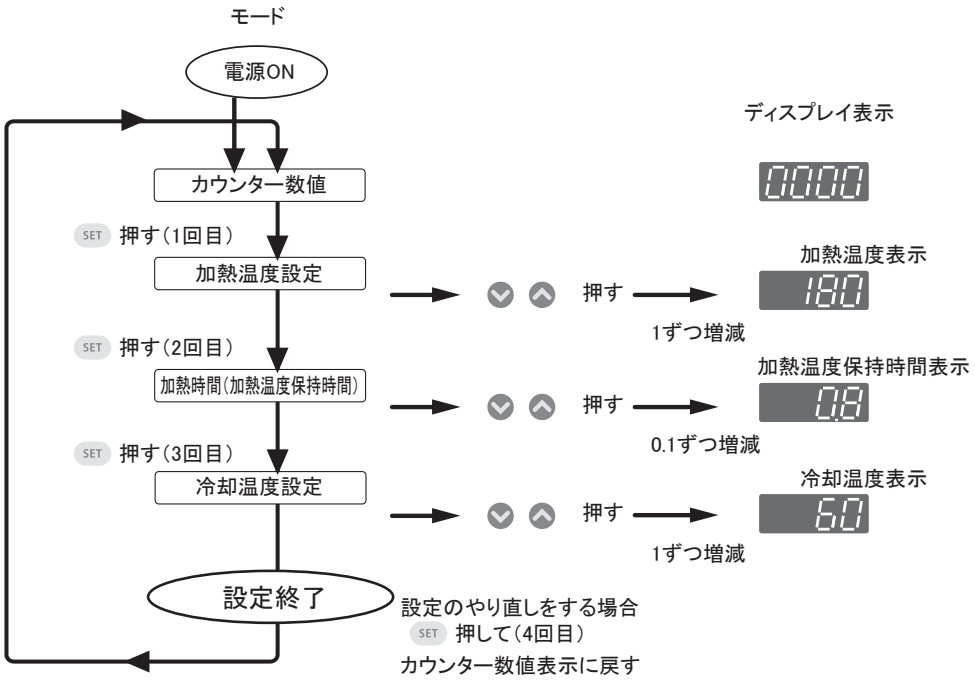
6-5　各モードの設定手順





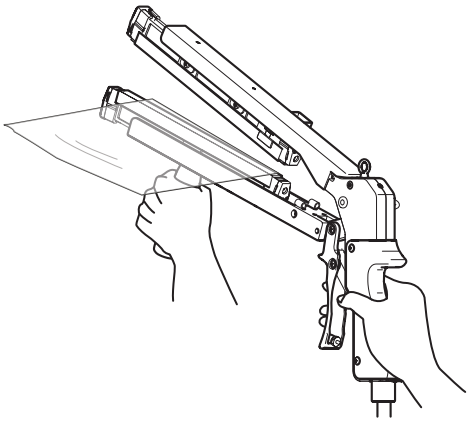
各モードの設定手順例

設定数値例：加熱温度 180℃　加熱時間（加熱温度保持時間）0.8 秒　冷却温度 60℃

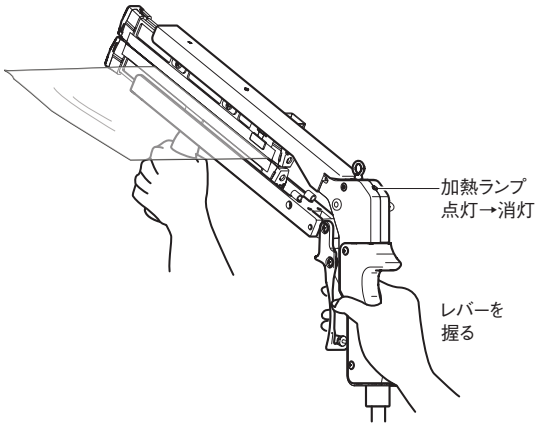


6-6　レバーを握りシールを行う

シール部に袋（フィルム）をセットします。



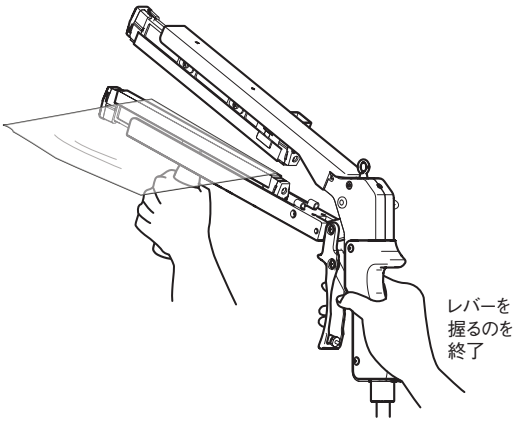
本体のレバーを引き（握り）ます。
レバーを引き（握り）ますと本体部の加熱ランプが点灯します。
設定加熱温度に到達すると本体部の加熱ランプが消灯します。



6-7　シールのできあがり

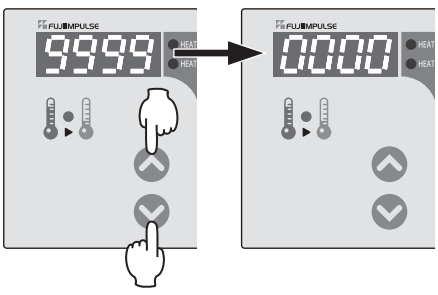
ヒーター部温度が設定冷却温度まで下がりますとブザーが鳴り、制御部の冷却ランプが消灯しますので、ブザーと冷却ランプを目安にしてレバーを引く（握る）のを終了し、シール部を開口して袋（フィルム）を取り出します。

注！　袋（フィルム）により冷却温度は異なります。ブザーを目安にしてください。



6-8　カウンターのリセット

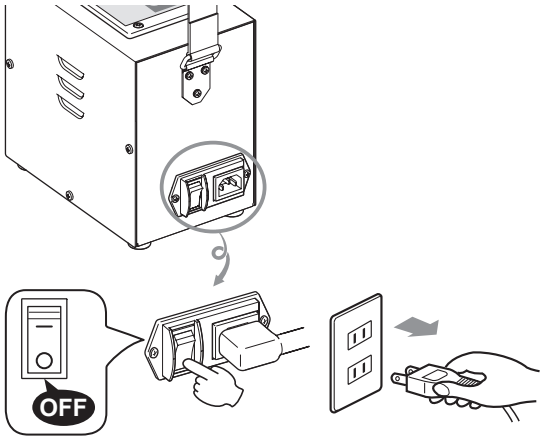
シール作業を行うとカウンターの数値が 1 ずつ 0000 ～ 9999 の範囲で増えていきます。
数値を 0000 に戻したい場合は、カウンター数（シール数）を表示しているモードでの状態で ▲ と ▼ ボタンを同時に押してください。



6-9　電源スイッチを OFF にする

作業が終了したら、必ず電源スイッチを押して OFF にしてください。

長時間使用されない時は制御部からハンド部を取り外し、電源プラグをコンセントから抜いてください。



6-10　作業終了後の点検

終了したら、清掃を行い、センタードライテープやヒーター等の部品が傷んでいないか点検を行ってください。
傷んでいるようであれば「7　消耗部品の交換方法」(→ P.18) を参照して、交換を行ってください。